

言葉と心理学の関係、 会計と読書による経営力

今回は、静岡英和学院大学に協力いただき、第 157 回の講演会・交流会を開催いたします。多数の方のご来場をお待ちしております。是非この機会に大学関係者・講演者とお交流いただき、今後の事業活動等にお役立ていただきますようご案内申し上げます。

2025 年 7 月 30 日 水

講演会 16:00～17:30

名刺交換会（交流会） 17:45～18:30

会場 講演会 静岡市清水産業・情報プラザ 3階 研修室 1・2
名刺交換会 同上 3階 ロビー



本会には、宝くじ
収益金の一部が
使用されています

講演
1

「なぜ、人は思い通りに 動いてくれないのか」

静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学科 講師 桑島 隆二 氏

講演
2

「孤独は武器になる～会計と読書で 鍛える、経営者の知性～」

静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学科 教授 金 承子 氏

参加料 無料 定員 会場聴講：40名

【申込方法】 下記申込書に記入して Fax、e-mail で申し込み下さい。
尚、右記 QR コードからも申し込みできます。

【事務局】 静岡商工会議所 産業振興課（担当：稲葉、堀川）
TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 e-mail:info@siip.jp

※大学側との積極的な交流を図るためにも、ぜひ名刺交換会までご出席下さい。

申込先は
こちら



参加申込書

第 157 回「産学官交流」講演会・交流会（静岡英和学院大学）

2025 年 7 月 30 日（水）開催

Fax 054-352-7817

事業所名		Tel	
所在地		Fax	
参加者名	(役職名：)	(役職名：)	
e-mail			

※お手数ですが e-mail アドレスの記入をお願い致します。

※ご記入いただきました情報は、商工会議所からの各種連絡・情報提供のために利用することがありますので、ご了承ください

講演 1

「なぜ、人は思い通りに動いてくれないのか」

静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学科 講師 桑島 隆二 氏

仕事に関する悩みのほとんどは、人間関係と言っても過言ではありません。実際、退職理由で最も多いものは人間関係となっています。どれほど給与や待遇などの労働環境が整備されても、人間関係に苦痛を感じるとその職場に居づらくなってしまうものです。

人間関係の悩みを一言で表現するなら、自分の考えや気持ちを「わかってくれない」ということです。きちんと伝えたはずなのに、どうして部下はその通りにやってくれないのか？ 自分の言っていることは正しいはずなのに、どうして上司は了解してくれないのか？

そこには、自分の考えは正確に伝わっているはずだ、というこちらの思い込みがあるのです。そのような思い込みがなぜ起きてしまうのか、言葉と心理学の関係という観点から解説します。



【専門】

臨床心理学 行動経済学

【略歴】

静岡英和学院大学 人間社会学部専任講師。大学卒業後、自動車部品メーカーに勤務。人事部にて新卒採用、新人教育業務に従事。司法書士として独立。その後、心理学を学ぶため大学院に入学し心理学博士号を取得。精神科病院、児童相談所、小中学校スクールカウンセラー等勤務。2023年より現職。教育委員会の依頼による不登校関連の講演会や心理学に関する市民講座を各地で実施。教育委員会いじめ問題調査委員会委員長等を歴任。心理学博士、臨床心理士、公認心理師、司法書士。

講演 2

「孤独は武器になる～会計と読書で鍛える、経営者の知性～」

静岡英和学院大学 人間社会学部 人間社会学科 教授 金 承子 氏

経営において、一人で重大な決断を下さねばならない“孤独”に直面することは、決して珍しくありません。利害が交錯する人間関係の中で、自分自身と静かに向き合う時間が必要とされることもあります。ドイツの哲学者ショーペンハウアーは、「普通の人々は退屈から逃げるために社交を求め、優れた人々は煩わしさから逃げるために孤独を求める」と語りました。孤独とは、他者に流されず、自らの目で現実を見つめようとする“知性”の証です。本講演では、その知性を経営にどう活かすかをテーマに、「会計」と「読書」という2つの力について実践的にお話しします。決算書をどう読み解き、どの数字に注目し、どんな問いを立てるか。そして読書を通じて、問いの中に自分の道を見いだす力をどう深めていくか。数字を読み、問いを立てること。その積み重ねが、孤独な経営に確かな指針を与え、確信をもって歩む力となると信じています。



【略歴】

大学で会計・経済・情報リテラシーの分野教育を担当。実務経験とFP資格を活かし、会計を「経営の言語」として伝える教育に力を注ぐ。読書による思考の深化にも関心を持ち、今後は企業研修や対話の場づくりにも取り組む予定。経営判断を支える知的支援をライフワークとする。